

第 12 屋外貯蔵所

1 保安距離

危政令第 16 条第 1 項第 1 号に規定する「保安距離」の起算点は、屋外貯蔵所の周囲に設ける柵等からとするほか、「第 4 製造所」の例による。

2 設置場所

- (1) 危政令第 16 条第 1 項第 2 号に規定する「湿潤でなく、かつ、排水のよい場所」とは、容器の腐食を防止するため、地盤面の高さを周囲の地盤面より高くするとともに、コンクリート舗装を行うか、又は土砂若しくは碎石等で固める等の措置を講じた場所をいう。
- (2) 地盤面をコンクリート等で舗装したものにあつては、排水溝及びためます若しくは油分離装置を設けるようにする。◆
- (3) 屋根を設ける場合は、建築物内に危険物を貯蔵することとなり、屋内貯蔵所の基準の適用を受けることになるため、屋外貯蔵所としては認められない。(昭和 51 年 11 月 24 日消防危第 100 号通知)

3 柵等

危政令第 16 条第 1 項第 3 号に規定する「柵等」の高さは、1m 程度とする。なお、危政令第 16 条第 1 項第 6 号に規定する架台を設けた場合には、当該架台を柵等に代えることができる。また、柵等(前述架台は除く)は、不燃材料とする。◆

4 保有空地

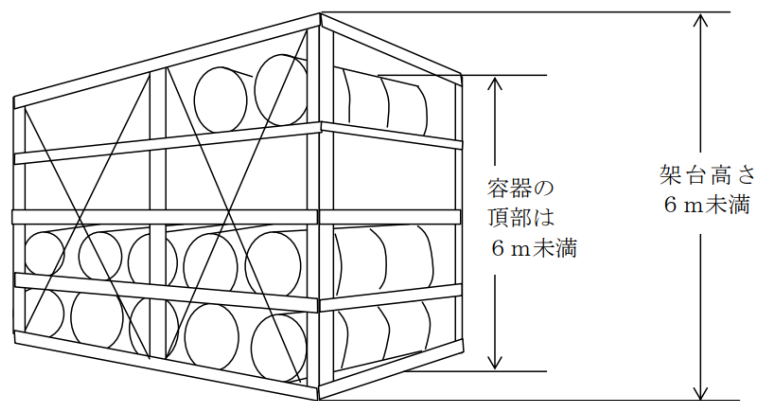
- 危政令第 16 条第 1 項第 4 号に規定する「保有空地」は、「第 4 製造所」の例によるほか、次による。
- (1) 保有空地の起算点は、屋外貯蔵所の周囲に設ける柵等の外側からとする。
 - (2) 二以上の屋外貯蔵所を隣接して設置する場合の保有空地については、大なる方を確保することで足りる。
 - (3) タンクは中仕切りのものであっても差し支えない。

5 標識及び揭示板

危政令第 16 条第 1 項第 5 号に規定する「標識及び揭示板」は、「第 4 製造所」の例による。

6 架台

危規則第 24 条の 10 第 1 項第 3 号に規定する「架台の高さ」とは、地盤面から架台の最上段までの高さとするが消火活動の観点から容器の頂部は 6m 以下となるようにする。架台の構造は「第 6 屋内貯蔵所」1(12)架台の構造の例によること。

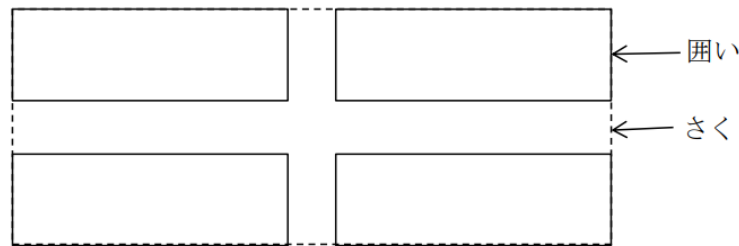


第 12-1 図 柵の例

7 塊状の硫黄専用の屋外貯蔵所

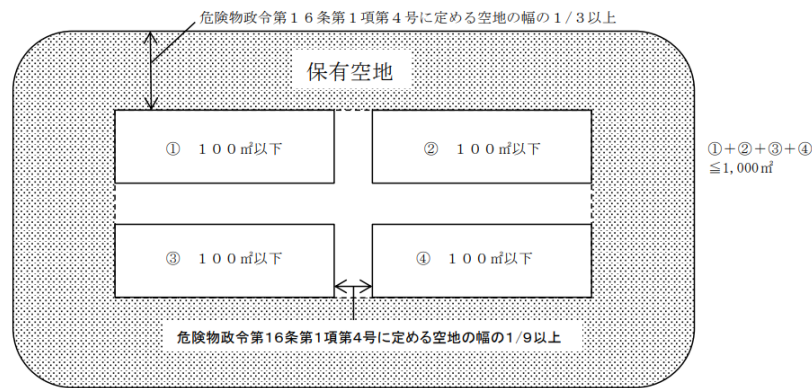
塊状の硫黄を容器に収納せずに所蔵する場合、危政令第 16 条第 1 項及び同条第 2 項の各号の基準に適合するように設置する。(昭和 54 年 7 月 30 日消防危第 80 号通知)

- (1) 危政令第 16 条第 2 項に規定する「囲い」は、同条第 1 項第 3 号に規定する「柵等」に含まれるものではないが、囲い相互間のうち硫黄を貯蔵し、又は取り扱う場所の外縁部分にさく等を設ければ足りる。



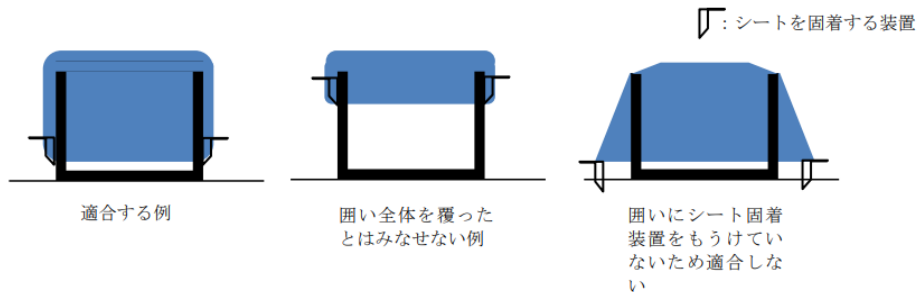
第 12-2 図 柵の例

- (2) 危政令第 16 条第 2 項第 2 号に規定する隣接する囲いと囲いの間隔は、危政令第 16 条第 1 項第 4 号の表に掲げる空地の幅の 9 分の 1 で足りる。



第 12-3 図 塊状の硫黄専用の屋外貯蔵所の例

- (3) 危政令第 16 条第 2 項第 5 号により設ける「シートを固着する装置」は、危政令第 26 条第 1 項第 12 号に規定する貯蔵の基準により「囲い全体を覆う」とされていることから、できるだけ地盤面に近い位置に設置することが必要である。なお、囲い全体を覆ったシートを囲いの周囲にロープを回して縛ることは、当該シートを囲いに固着させたものとはみなされない。



8 高引火点危険物の屋外貯蔵所

高引火点危険物のみを貯蔵し、又は取り扱う屋外貯蔵所については、危規則第 24 条の 12 の基準又は危政令第 16 条第 1 項の基準のいずれかを設置許可又は変更許可の申請者において選択できる。(平成元年 3 月 1 日消防危第 14 号・消防特第 34 号通知)

9 タンクコンテナに収納して貯蔵する場合の基準

- (1) 危政令第 15 条第 2 項に規定する積載式移動タンク貯蔵所の基準のうち構造及び設備の技術上の基準に適合する移動貯蔵タンク並びに「国際輸送用積載式移動タンク貯蔵所の取扱に関する指針について」(平成 13 年 4 月 9 日消防危第 50 号通知)に示す国際輸送用積載式移動タンク貯蔵所に積載するタンクコンテナに限り、屋外貯蔵所に貯蔵しても差し支えない。(平成 10 年 3 月 27 日消防危第 36 号通知)
- (2) 保有空地については、次によることができる。

ア 高引火点危険物のみを貯蔵する場合

区分	空地の幅
指定数量の倍数が 200 以下の屋外貯蔵所	3m以上
指定数量の倍数が 200 を超える屋外貯蔵所	5m以上

イ ア以外の場合

区分	空地の幅
指定数量の倍数が 50 以下の屋外貯蔵所	3m以上
指定数量の倍数が 50 を超え 200 以下の屋外貯蔵所	6m以上
指定数量の倍数が 200 を超える屋外貯蔵所	10m以上

ウ タンクコンテナに収納した危険物と容器に収納した危険物を同一の貯蔵所において貯蔵する場合は、

タンクコンテナに収納した危険物の倍数に応じ、ア若しくはイの規定により必要とされる幅の空地又は容器に収納した危険物の倍数に応じ、危政令第 16 条第 1 項第 4 号若しくは危規則第 24 条の 12 第 2 項第 2 号の規定により必要とされる幅の空地のいずれか大なるものを保有する。

10 ドライコンテナによる危険物の貯蔵について

ドライコンテナによる危険物の貯蔵については、「ドライコンテナによる危険物の貯蔵について」による。(令和 4 年 12 月 13 日消防危第 283 号通知)